

●認知症の人を支援する体制やサービス

認知症の段階	日常生活に支障はない		見守りが必要 (軽度)	手助け・介護が必要 (中等度)	常に介護が必要 (重度)	
	年相応のもの忘れ	MCI(軽度認知障害)				
本人の様子や症状	<ul style="list-style-type: none"> ●「あれ」「それ」「あの人」など代名詞が増える。 ●ヒントがあれば思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れが増えている自覚がある。(周りの人も気づき始める。) ●計算間違いや漢字のミスなどが増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じことを何度も聞く。 ●調理、買い物、金銭管理などができなくなる。 ●時間や曜日だけでなく、季節や年次があやふやになる。 ●感情の起伏が激しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れの自覚がなくなる。 ●ものがないと「盗られた」と言うようになる。 ●家までの帰り道がわからなくなる。 ●家族が認識できなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●食事、トイレ、お風呂など日常生活に関することに、誰かの助けがないと難しくなる。 ●言葉による意思表示、意思疎通が難しくなる。 ●寝て過ごす時間が長くなる。 	
対応のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ●気になるり始めたら早めにかかりつけ医や相談窓口へ相談しましょう。 ●介護予防のために生活を見直しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人に認知症専門医への受診を勧めましょう。 ●本人が今まで通り外出したり、人に会う機会を作りましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活の中で役割を持ってもらい、できないところは手伝いましょう。 ●家族間で認知症介護のことについて話し合っておきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族だけで支えようとせず、介護保険などのサービス利用で介護する人の心身の負担を軽くしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スキンシップなど言葉以外の関りで、本人が安心できるように心掛けましょう。 ●最期の迎え方(看取り)について家族間で話し合いをしておきましょう。 	
認知症の人を支援する体制やサービス	医療					
	介護					
	介護予防					
	生活支援					

普段のくらし
健康のために
介護予防のために
生活の困りごとが増えてきたら
もの忘れが気になったら
介護サービスが必要になったら

普段のくらし
健康のために
介護予防のために
生活の困りごとが増えてきたら
もの忘れが気になったら
介護サービスが必要になったら